

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北区
学 校 名	弘済小学校
学校長名	鹿嶽 昌彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・弘済小学校では、第6学年6名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では大阪市平均正答率65％に比べ16％下回り、算数では20％下回っている。指導要領の内容でいうと、国語では「情報の取り扱い方に関する事項」が大きく下回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」では2.7％上回っている。算数では「データの活用」が特に大きく下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

「国語」

「話すこと・聞くこと」の項目では、大阪市・全国の平均を上回っている。これは普段から自分の考えを話したり、友だちの意見を聞いたりして学習が身についていると思われる。「書くこと」の項目では、平均を下回ったものの、60％以上正答率があり、最後まで書こうとしていた様子が想像できる。

しかしながら、他の4項目では大阪市、全国の平均を大きく下回り、学力の定着の難しさが見て取れる。特に「情報の扱い方に関する項目」では、学校の平均正答率が16.7％であり非常に正答率が低くなっている。普段から情報活用ができるような学習内容を取り入れ、慣れていくようにしなければならない。

「算数」

算数科においては、5項目すべてが大阪市、全国平均を大きく下回っている。中で「データの活用」が大きく下回っており、苦手な学習内容だと言える。6年生では新しく「データの整理と活用」の単元があるので、そこでしっかりと学習が理解できるように支援の工夫をしていく必要がある。

「理科」

理科においては、大阪市の平均正答率55％、全国平均正答率57.1％に対し、本校は28％である。国語と算数に比べ無答率が高いのが特徴である。A区分では「粒子」を柱とする領域、B区分では、「生命」を柱とする領域が正答率が低かった。身近なところから興味・関心をもたせることで、学習へと繋がるようにしていくことが大切である。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目は80％以上肯定的な回答であったことから、学習面・生活面で大きなトラブル等は起きていないと考えられる。一方で「普段の生活で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目では、よくある・ときどきあるの肯定的な回答が67％で大阪市、全国よりも大きく下回っており、本校の子どもたちの家庭環境等が関係していると思われる。

今後の取組(アクションプラン)

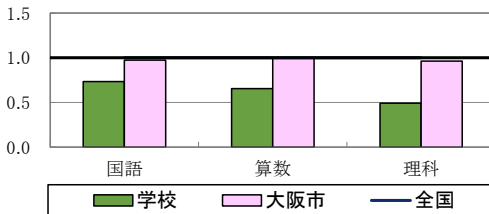
- ・本校の特徴として転入が多く、同じ学年であっても、児童それぞれが学校に通えていない時期が異なり、学力に個人差がみられる。担任だけでなく支援員・サポーターを含め教職員全体で、個に応じた支援を工夫していく必要がある。
- ・本校の取り組みの一つである漢字チャレンジ・計算チャレンジの時間を活用し、基礎的な漢字の読み書きのや、基礎基本となる計算練習に習熟度別で取り組んでいく。そのことによって、基礎学力の向上を図っていく。

【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	49	38	28
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

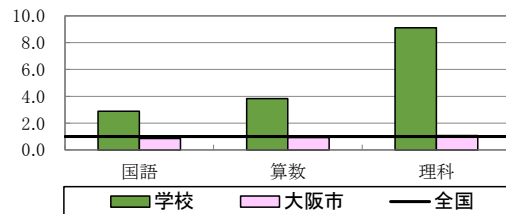
平均正答率(対全国比)



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	9.5	13.8	25.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

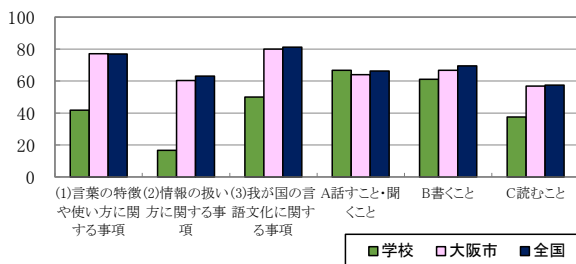
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	2	41.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	16.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	50.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	66.7	64.0	66.3
B 書くこと	3	61.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	37.5	56.9	57.5

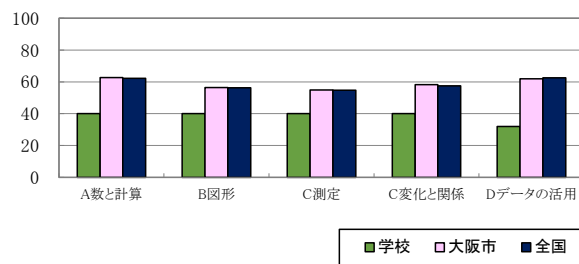
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



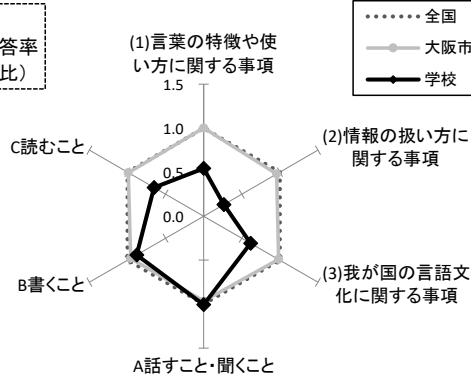
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	40.0	62.7	62.3
B 図形	4	40.0	56.4	56.2
C 測定	2	40.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	40.0	58.2	57.5
D データの活用	5	32.0	61.9	62.6

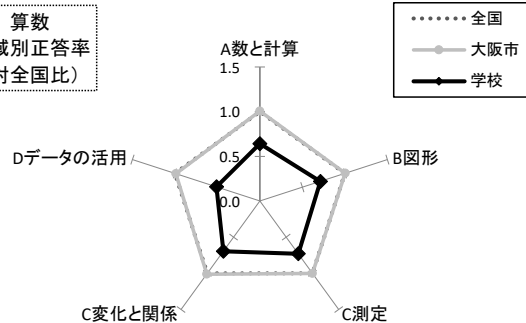
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

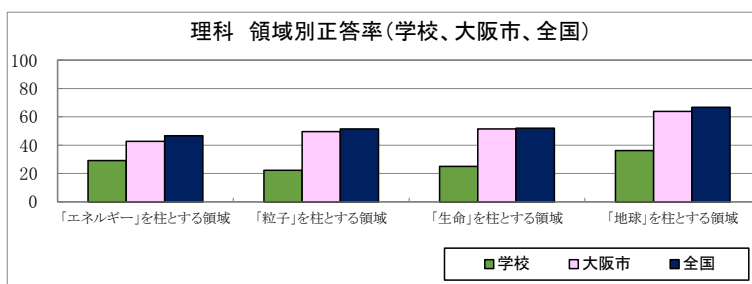


算数 領域別正答率 (対全国比)

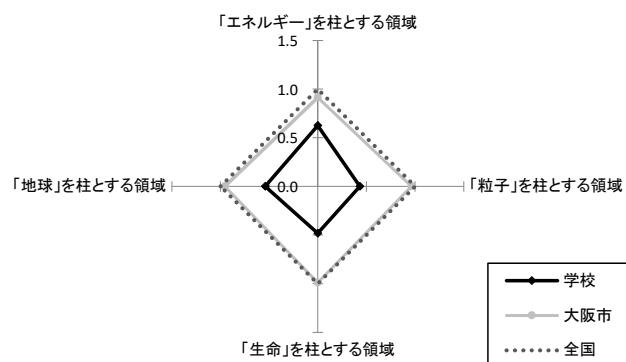


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	29.2	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	22.2	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	25.0	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	36.1	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

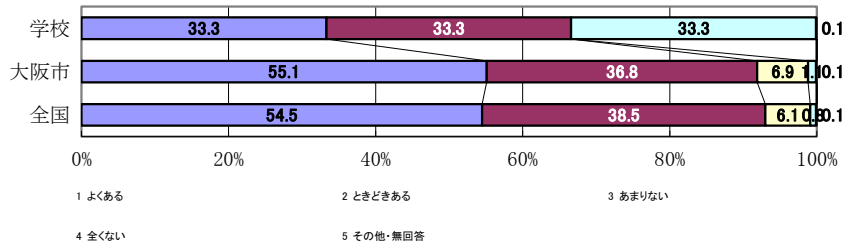
質問番号

質問事項

15

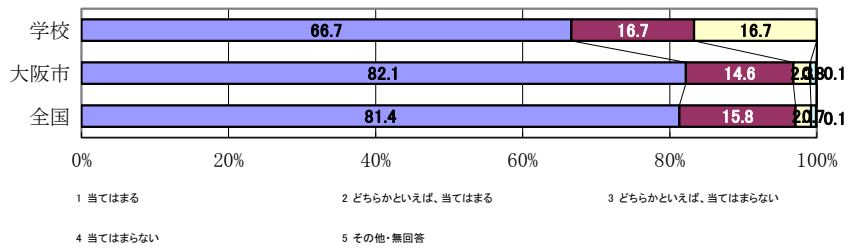
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

1 2 3 4 5 6 7 8



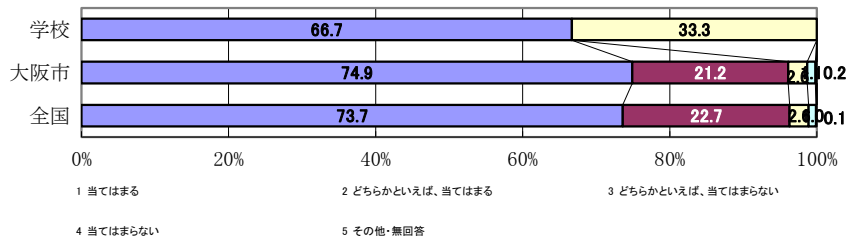
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



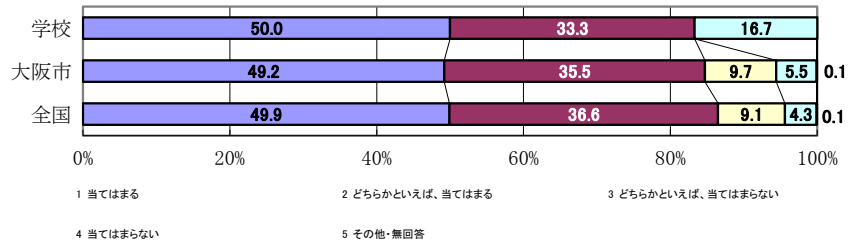
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



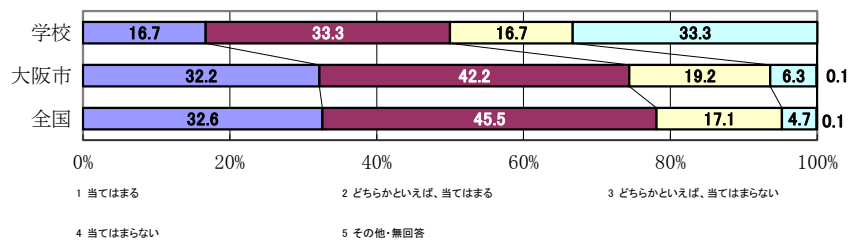
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



学校質問より

質問番号

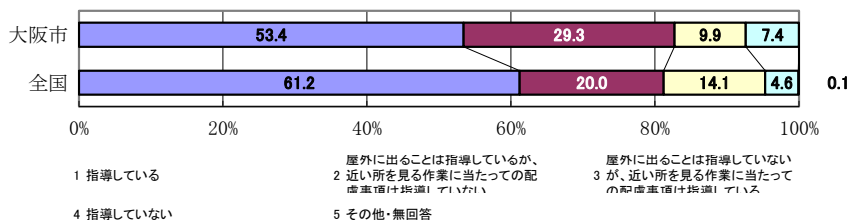
質問事項

10

近視の予防の一環として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項(対象から30cm以上

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

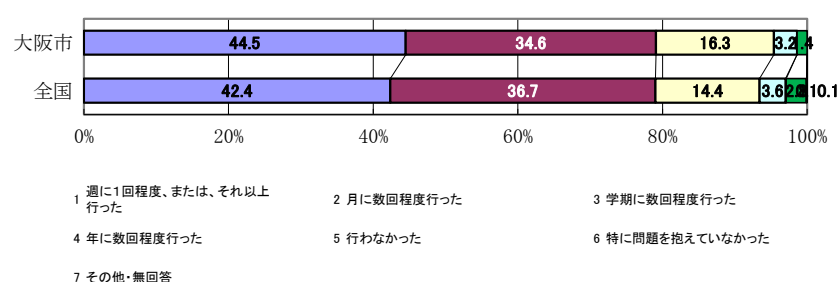
学校 「指導している」を選択



11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

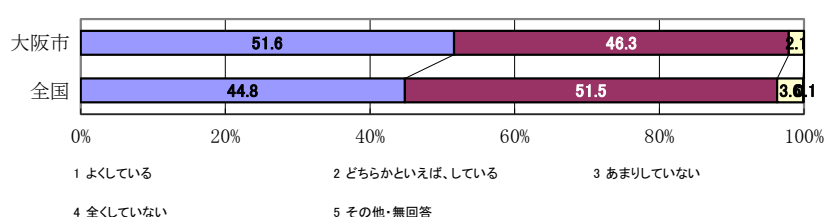
学校 「月に数回程度行った」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

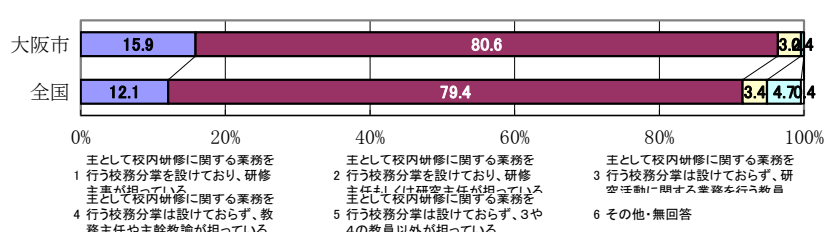
学校 「どちらかといえば、している」を選択



20

校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)

学校 「主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており、研修主任もしくは研究



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

